

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

名誉心を取り戻す 月尾 嘉男 (東京大学名誉教授)

1. 日本の社会の重要な特長は老舗が多いことです。200 年以上続いている企業は中国に 9 社、インドに 3 社しかありませんが、日本では 3100 社以上ある。理由はいろいろ考えられますが、一言で言うと「柔軟さ」だと思います。不易流行という言葉があるように、自社の商品が時代の主流でなくなった時は、伝統を受け継ぎながらも次々と変わっていくという柔軟さを備えている。
2. 長く続いている会社には、その柔軟性に加えて「企業の安心」というものがあります。それが家訓や遺訓として残されているのですが、それらに共通するのは利益を第一とせず、信用や正直を第一にしている。これが日本の企業の素晴らしさだと思います。
3. 今、日本はこれからが正念場だと思います。この素晴らしい日本の国が存続できるかどうかは、日本人一人ひとりが物事の本質を見抜く力を養い、日本が誇る文化を世界に向けて発信していくことにかかっています。明治初期、スコットランドのヘンリーディアは、「明治維新を推進する力となったのは、物質資源の開発と富の増進が動機だったわけではない。何より劣等国として見下されることは耐えがたいという名誉を重んじる気持ち、それこそが最大の動機だったのである」と述べています。この名誉心を取り戻すことこそ、日本人にとって最も大事なことではないかと思えます。(参考:「致知」2012 年 9 月号)

ワンポイント経営アドバイス

海外進出先が分散

1. 世界に進出している日本企業の海外現地法人数が 2 万 3858 社に上ることが明らかになった。新規進出件数は、2004 年の 1065 件をピークにいったん減少したものの、2009 年を底に再び増勢に転じ、再び海外進出ブームを迎えつつある。
2. 新規進出先を 2004 年と 2011 年とで比較すると、中近東を除くアジアがともに 7 割を超えるが、内訳の国別比率には変化が見られた。2004 年は中国本土が 5 割超を占めていたのに対し、2011 年は 3 分の 1 まで低下。代わってタイ (8.0%)、インド (6.6%)、インドネシア (6.5%) と進出先が分散、多様化している。

(参考:「週刊東洋経済」:2012 年 7 月 7 日号)

海外事情

EU 諸国内の大きなずれ

1. EU 主要国の政策決定者の間で、この春以降、「ギリシャ異質論」を言う人が増えている。5 月 29 日に欧州で行ったアンケートに「EU 内で最も勤勉な国はどこ?」という質問に、英国、フランス、ドイツ、スペイン、イタリア、ポーランド、チェコの人々は、ドイツを 1 位に挙げた。しかし、衝撃的なことに、ギリシャ人はギリシャを 1 位にした。
2. 逆に、「最も怠惰 (非勤勉) な国はどこか?」という質問には、ドイツ人の 60% がギリシャと答えた。圧倒的な 1 位である。しかし、ギリシャ人は、イタリアを 1 位に挙げた。こういった大きな認識のずれは、先行きの EU によるギリシャ救済を困難にするだろう。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2012 年 6 月 30 日号)

古典に学ぶ

競争にはモラルが必要だ

「商売上 (殊に輸出営業について) に、注意を望むのは、競争に属する道徳である。すべて物を励むには競うということが必要であって、競うから励みが生ずるのである。

(解説) ビジネス (特に輸出関係など) の上の競争では、それに伴うモラルを忘れてはならない。物事に励むためには、競争が必要である。人と競い合うからこそ、努力が生まれる。

(参考: 渋澤健「渋澤栄一 100 の訓言」: 日経ビジネス人文庫)